

6.1 カリキュラムの編成

進捗状況報告

2007年度の再編を機会に、カリキュラムの編成をおこなった。博士課程前期課程では高度な水準の学術研究を行うために、それぞれの領域ごとに研究演習・特殊講義・文献研究などの科目を編成した。また、文学言語学専攻では言語科学の立場から専門的に研究が進められるように「言語科学研究演習」を設置した。

博士課程後期課程では、博士学位の取得を目標に研究及び博士論文執筆の進展を図るため、2007年度から必修科目の演習12単位を修了要件とするように改め、必要に応じて前期課程授業科目の中から選択科目を履修することができるように配慮した。また、新たに「特別研究」と称する科目を設けた。「特別研究」は研究演習や博士論文作成演習を補完する科目として、演習以外での研究上の指導を行い、研究会・調査などへの参加、発表や論文投稿などに対して助言を行うものである。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

広領域の専門分野の設置については、日本文学日本語学・英米文学英語学・フランス文学フランス語学・ドイツ文学ドイツ語学の各領域に共通して「言語科学研究演習」を設置して対応した。

独立した一つの領域として「地理学地域文化学領域」「アジア史学領域」を設置して、認証評価において指摘された点については改善された。

学内第三者評価

課程博士の養成を重視することを含めて、緻密な指導体制をめざした改革が行われている点が評価できる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。
・新カリキュラムの初年度なので、今後の成果が期待される。認証評価において「専攻名を持たない専門分野の研究科内での位置づけが不明確」と指摘された点については改善されたのであろうか。